

# ソフト無念の銅

# 0-3 豪州に苦杯

【アテネ22日共同】アテネ五輪第10日の22日、ソフトボールは準決勝で中国と対戦、延長8回の末、宇津木麗華(日立&ルネサス高崎)の二塁打で挙げた決勝点を上野由岐子

(同)が守り、1-0で下した。続くページシステムによる3位決定戦で、1次リーグ2位のオーストラリアと対戦、0-3で敗れ、銅メダル。2大会連続の決勝進出はなかった。

**打倒米国の執念実らず**  
4年間追い続けてきた米  
国への雪辱の機会は得られ  
なかった。  
ソフトボールの日本は、  
午前中に中国を退けた後、



ソフトボール3位決定戦でオーストラリアに敗れ、涙ぐむ高山IIソフトボール競技場(共同)

強い日差しの残る夕方から、決勝での米国への挑戦権を懸けてオーストラリアと対戦。この一戦に敗れ、金メダルへの道は断ち切られた。  
1次リーグ初戦で2-4と敗れた相手に再び屈し、夢は消えた。苦戦の連続の中、後がない試合を勝ち続けてきたが、ついに力尽きた。  
前回シドニー五輪の1次リーグは、米国にも勝って7戦全勝。しかし決勝では、米国に延長8回サヨナラ負けした。宇津木監督は「2度とああいう思いはしたくない。勝負に対する執念や、一球の重みを感じつつ強化をしてきた」と、この4年間を語る。  
すべては米国に勝って、金メダルを獲得するためだった。目指したのは1点を奪い、守り抜く野球だ。機動力と堅守の山田を代表に抜てき。剛速球投手の上野も成長したが…。  
4年前は銀メダル。今回手にしたのは、無念の銅メダルだった。